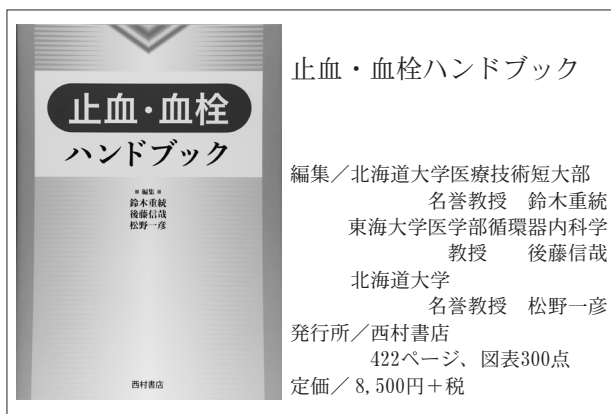


書評 ー止血・血栓ハンドブックー

札幌医科大学医師会
札幌医科大学学長

島本 和明



鈴木重統、後藤信哉、松野一彦の三氏編集による「止血・血栓ハンドブック」が刊行された。DIC診断基準断定案（2014）の掲載をはじめ、止血・血栓に関する項目を広汎に網羅したハンドブックである。

本書発刊にあたり、まずは鈴木重統先生の編集によることを懐かしく思い出しつつ、一気に通読した次第である。小生の研究は高血圧の成因の中でも、腎カリクレインーキニン系という血圧調節系（腎性降圧系）である腺性カリクレインーキニン系の研究であった。一方で、カリクレインーキニン系には、止血・血栓系に関連する血漿カリクレインーキニン系が存在し、鈴木先生は高血圧の成因の中でも、産科領域を中心に凝固・線溶系と血漿カリクレインー

キニン系の分野で、オピニオンリーダーとして中心的な活躍をしていた。小生が研究を開始して以来、国際的な研究発表の場は主として国際キニン学会であった。本邦の中で国際キニン学会に参加する研究者は限られており、研究発展のためにも国内研究者との交流を図り、研究発表、意見交換の場を作り、日本での国際キニン学会の誘致を進めてきた。鈴木先生の長年の研究テーマである止血・血栓に関連する血漿カリクレインーキニン系の仕事は、国際キニン学会を通じて以前から注目しており、その研究発表に感銘を受けてきていた。

一方で、同じ北海道で研究を行う者として北海道カリクレイン研究会を作り、多くの国内外の研究者を招いて討論を深め、鈴木先生も参加されていた。

今回のハンドブック上梓において、鈴木先生のこれまでの研究の総決算として「止血・血栓ハンドブック」が刊行されたことに大いに敬意を表する次第である。

本書の特徴は、まずは止血・血栓の分野の研究が大きく進展してきている中で、up-dateな視点で項目が整理されている点である。1章では、止血・血栓の基礎と臨床について、DICを中心に整理し、次いで各種疾患における止血・血栓の意義を詳細に述べている。さらに2章は、鈴木先生の専門の妊娠・分娩と止血・血栓について、極めて洗練された充実した内容となっており、若い先生方や研修医の先生方にとっても大いに参考になろう。

鈴木重統先生の年齢を感じさせない活動力に敬意を表し、今後のご活躍を祈念するとともに、本書を多くの先生方の役に立つ座右の書として勧める次第である。

報 告

台湾における爆発事故による重傷熱傷患者に対する医療支援活動への支援について

◇総務部◇

6月に発生した台湾の爆発事故に対する支援について、先般、北海道医報等にて協力要請をいたしましたところ、会員各位および各都道府県・郡市・医育機関医師会等より、日本医師会に総額13,837,010円（10月15日現在）の支援金が集まり

ました。なお、当会からも30万円の支援をいたしております。

支援金は、主に台湾医師会を通じて配賦されましたので、ご報告申し上げます。

皆様のご協力に心より御礼申し上げます。